

「平和の火」で夜空に祈り

夏至（6月21日）前後に、原爆の残り火をともして平和を祈る全国イベントを企画している大阪市の市民団体「キャンドルナイトワンピース実行委員会」が、被爆地・広島からの参加を呼びかけている。福岡県星野村（現・八女市）の住民が被爆後の広島から持ち帰り、村の記念碑で今も燃え続けている「平和の火」を採火し、各地で一斉にともす企画で、今年で4年目。実行委は「平和について考えるきっかけに」と訴えている。

07年に関西の3カ所で始めた企画で、09年は19都道府県51カ所で開かれた。「平和の火」は、被爆後の広島に叔父を探しに来た故山本達雄さんが、「遺品代わりに」と焼け跡でくすぶっていた残り火を持ち帰ったもので、山本さんの没後に村が供養塔を建立して引き継いできた。

イベントの参加者のうち希望

者は6月上旬に旧星野村に出向き、火の由来を事前学習した後採火。各地に火を持ち帰り、それぞれがイベントを開催する。

始めた。収益は被爆者団体に寄付し、キャンドルナイトでの使用も歓迎する。

実行委代表の吉沢武彦さん

来月下旬 全国でキャンドルナイト

実行委は昨年から、大阪市のキャンドル作家と協力して、結婚式場の使用済みキャンドルを回収し、色鮮やかなキャンドルに再生して販売する取り組みも

(31)＝大阪市＝は「広島から参加があればうれしい」と話している。参加希望は、今月30日までに同実行委 (<http://www.pi-ce.jp/>) へ。【宇城昇】

被爆地 広島からも参加を



キャンドルナイトへの参加を呼びかける実行委代表の吉沢武彦さん（右）。並んでいるのはリサイクルキャンドル。大阪府北區で